

井植文化賞

戦後、日本の復興と繁栄に大きな足跡を残した三洋電機株式会社の創設者、故井植歳男氏の遺志によって昭和44年11月に設立された財団法人「井植記念会」が、兵庫県在住または兵庫県にゆかりの深い人のなかから、めざましい活躍をされた人を受賞の対象としてその功績を讃えるとともに、地域社会のより一層の発展に寄与したいと考え、この『井植文化賞』5部門を設定しました。今回で第8回を数え、各分野の評論家、学識経験者などをもって部門ごとに構成される選考委員会によって次のように決定しました。

報道出版部門



日中友好番組

「神戸からこんにちわ」「天津からこんにちわ」
株式会社ラジオ関西

報道制作部

チームプロデューサー
代表・松田和子

日中交流の一環として、昭和56年6月18日付で「児童を主な対象とする15分番組を月に1回交換し合って放送する」という協定書が作成され、同年7月25日、「神戸からこんにちわ」が天津で、8月23日、「天津からこんにちわ」がラジオ関西で放送が開始された。番組が放送されると、聴取者から「番組を通じて、日中両国の友情が深まった」などの投書が多く、幅広い層に関心を呼んだ。

地域活動部門



KICS

＜神戸インターナショナル・コミュニケーション・サービス＞

代表・臼杵百合子

神戸にやって来る留学生を物心両面でサポートする目的で、KICSが誕生したのは昨年の9月。その前身である「ふれあい神戸」は5年前に活動を始めた。とりわけ私費留学生の場合、学資に窮するケースが多い。留学生の日本企業へのアルバイトあつ旋をはじめ、茶道教室など日本文化のガイダンス、そして今年4月には須磨に自前で留学生女子寮を完成させた。現在、会員は70名。国際親善の架橋として高い評価をうけている

社会福祉部門

神戸東部地域
入浴サービス
実施委員会

会長・川口重義

ねたきり老人や身障者などの入浴ニーズを切実に痛感している福祉従事者の有志が、ボランティアグループを結成し、昭和54年に発足した。ボランティアが力を合わせ、入浴サービスを始めたのは高山市に次いで全国で2番目。

会長川口重義氏（医師）を中心にボランティア90名が現在活動中である。また、最近では、外国人も加わり、国際色豊かな、全国でも例のない団体として注目を浴びている

科学技術部門



西塚泰美

＜神戸大学医学部教授＞

昭和7年名古屋市生まれ。現住所は芦屋市。京都大学医学部卒業、インターを経て同37年京都大学医学部助手、同38年医学博士、同39年助教授となる。同年米国ロックフェラー大学客員研究員として一年間渡米。同44年神戸大学医学部教授として現在に至る。尚、同55年から岡崎国立共同研究機構の基礎生物学研究所教授も併任する。日本生化学会奨励賞、ベルツ賞、松永賞、武田医学賞など受賞も多い。

文化芸術部門



安水稔和

＜詩人＞

昭和6年神戸市生まれ。神戸大学英米文学科卒業。昭和25年詩誌「ぼえとろ」創刊。以後「交替詩派」「再現」「灌木」「くろおべす」同人、「蜘蛛」編集グループ等を経て現在「たうろす」「歴程」同人、松蔭中学校・高等学校勤務。昭和34年度H氏賞受賞（詩集「鳥」）、昭和48年度芸術祭優秀賞受賞（ラジオドラマ「旅に病んで」）他。詩作に加え、劇作ラジオドラマ、ドキュメンタリー、作曲等の業績が評価された。

科学技術部門

発癌や生理学解明の研究を続ける

西塚泰美



冒頭に、現在の科学技術は機能性やテクノロジーを追及するだけのものではなく、人間性の尊重や回復も重視されるべきだ、との意見が出た。審査員全員がそれに同意を示した。

選考委員
西羅 寛
（神戸大学農学部長）
溝井泰彦
（神戸大学医学部長）
松本隆一
（神戸大学工学部長）
眞鍋正志
（神戸新聞論説委員）

がんがどうしてできるかは誰もが関心を寄せており、問題であるが最近ホルモンや細胞生長因子の作用機構の研究から、その理解への緒が開かれてきた。私達のからだを構成する一兆個以上におよぶ細胞の多くは、種々のホルモンや細胞生長因子の作用を受けて常に入れ替っている。がんをおこす数多くのウイルス遺伝子と相同の遺伝子が実は正常細胞に作用しておらず、それらが細胞機能や生長を調節する種々の因子の作用の仕組みと密接に関係していたのである。

神戸大学医学部生化学教室の西塚泰美教授とその共同研究者は、数年来こうした仕組みに焦点を当てて精力的な解析を続けていたが、この程、その基本的なあらま

しの解明に成功し、画期的な先鞭をつけて脚光を浴びている。細胞膜にホルモンや生長因子が働くと、その構成々分の一つ、イノシトールリン脂質が秒単位で代謝され、そこから産生される様々な物質が細胞の機能亢進や増殖開始の引き金を引いている。また、古くから謎であった「発がん」の強力な促進物質、TPAもこの引き金物質の一つを代行していることが判明した。これらの知見が基礎となつてがんの成り立ちの仕組みが急速に理解され始めた。西塚教授にはこのため欧米各國の主要な学会や学士院からの招待があい続いており、今秋にはハーヴアード大学医学部に客員教授の席が用意されている。

△溝井泰彦

同氏の研究はホルモンおよび神経伝達物質の受容機構を中心である。発癌原因の発見や増殖作用の抑制、解析等の第一人者。「ネイチャ」「サイエンス」など外国雑誌掲載の論文も多い。

●選考経過

報道出版部門

選考経過

神戸・天津両市民
友好親善の架け橋

ラジオ関西制作

「神戸からこんにちは
「天津からこんにちは

選考委員

坂上 豊 左藤 孜
〔ラジオ関西株〕代表取締役
〔NTK神戸放送局長〕

長島晴雄

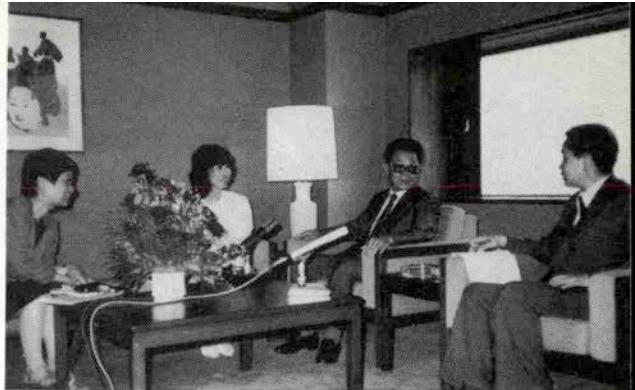
〈神戸新聞監査役〉

你好、天津向你向候！（ニンハ

オティエヌジン シャニン ウ
エンホウ)——毎月第四日曜日の
朝八時、ラジオ関西にダイヤルを
あわせると、こんな、とてもきれ
いな中国語が流れてくる。日中友
好番組「天津からこんにちわ」で
ある。

神戸市と天津市は、十一年前に友好都市・友好港の提携をして以来、さまざまな分野で活発な交流を行っているが、両市の地元放送局であるラジオ関西と天津放送局では、三年前から毎月一回番組（十五分間）を交換し合って放送を続けている。

天津からおくれてくる番組は
もちろんすべて中国語。そこで専
門家に翻訳してもらつたうえでテ



が分果しているのではないかと評価する。

最後に審査員の方から、神戸に支社のある新聞の連載小説にすればらしい作品がぜひとも掲載されることを望む声があがつた。

西独自のユニークな企画で、番組は、約2年間続いているラジオ関連の日中友好に貢献した功績が今回、の受賞の最大の要因となつた。

「峰相記」は、播磨の風土記、郷土史の研究としては、一級のものであると評価、しかし、郷土史の専門家の評価を得る必要があるという理由により来年の候補とし

寺に伝わる古事を原文、翻訳、難解と思われる文字の注釈でまとめた「峰相記」とラジオ関西制作の日中友好番組「神戸からこんにちわ」、「天津からこんにちわ」の二

神戸新聞がキャンペーンを開催し話題となった、「加西市長汚職事件」の報道記事、同社が25年にわたって取り組んだ部落差別の問題をまとめた「差別の壁の前で」(解放出版社刊)、6年ぶりに発行された「兵庫大百科辞典」(上下2巻)、船田企画出版で、但馬の文化財を紹介した「但馬の文化財全6巻」が今年の候補としてあげられたが、中田赳郎さんは作家の

社会福祉部門

ねたきり老人との
ふれあいを



神戸東部地域 実施委員会

服部 正 津田 元
 野上文夫
 〔松蔭女子学院大学教授〕
 〔神戸新聞社社会部長〕
 〔社会福祉情報センター所長〕

選考委員会

ボランティアが力をあわせ、移動入浴車で地域のねたきり老人や重度障害者に入浴サービスをはじめたのは、高山市について神戸東部地域入浴サービス実施委員会（愛称ふれあいの会）が全国で二番目であった。

日頃日常活動の中で、老人などの入浴ニーズを切実に痛感している福祉従事者の有志が、ボランティアグループを結成し、昭和54年に発足した。会長川口重義氏（医師）を中心にボランティア九〇名が現在は活躍中である。

この会の特色は、医師、看護婦、保健婦などが3分の1参加し、社協、施設、福祉事務所、消防署の職員、主婦、学生など幅広い分野から参加したボランティアで互い

に連携をしながら入浴サービスを実施していることである。さらに最近では外国人數名も加わり国際色豊かな、全国でも例のない団体として注目を集めている。

活動地域は、東灘、灘、中央の三区で、毎週、水、木、金、曜日の4回、15チームに分れたボランティアが2台の入浴車を使って走りまわっている。

発足して五年になるが、この会の指導助言で四つの姉妹グループが誕生し、各地で入浴サービスを実施している。また、この先駆的な活動が引金となつて、神戸市で入浴サービス事業の予算化がなされるなど、小さな活動から大きな活動へと着実に輪はひろがつていった。神戸にまた一つ新しい福祉文化が根づいてきた。／野上文夫／

●選考経過

候補にあがつたのは、脳卒中者にリハビリの重要さを訴え、認識向上に貢献している「脳卒中友の会」会長の山本繁博、痴呆性老人介護のための家族の意識改革に取り組む「東灘保健所・精神衛生相談員」の森井俊次・土井寛子、全盲でありながら大学に通い、また、

「音景色」という本も出版した村上千代、東灘・中央区間でボランティアによる入浴サービスを続ける「神戸東部地域入浴サービス実施委員会（川口重義会長）」、地域分散型老人ホームのあり方を実践している「セブンスデーアドベンチスト教団エリヤ会」施設長の木下淳子などの各団体、個人である。

地域の中での活動実績という面から、特定教団の試みだが、54年1月、北区有野台にわが国初の地域分散型老人ホーム「有野台ファミリー」を建設し、老人を尊び、地域の中でもともに生きるホームづくりを進めてきた木下淳子、55年4月より在宅寝たきり老人、障害者への入浴のサービスを続けてきた「神戸東部地域入浴サービス実施委員会」の2グループに絞られた。一昨年、神戸市で入浴サービス公費制度実施の引き金となつた点が評価され、結局「神戸東部地域入浴サービス実施委員会」に決定。

神戸女流文学賞作品募集

小説は昭和51年に創刊15周年記念として神戸文学賞および神戸女流文学賞を創設いたしました。これを機に有為の新人に新しく道を開くとともに、西日本における文学活動の一層の発展のために微力を尽したいと願っております。過去の受賞作品は次の通りです。

- 第一回神戸文学賞「島之内ブルース」（田原新・尼崎市）同女流文学賞「ベットの背景」（小倉弘子・大阪市）
- 第二回神戸文学賞「姫捨て」（奥野忠昭・大阪府柏原市）「生活」（吉峰正人・神戸市）この回の神戸女流文学賞は該当なしで、神戸女流文学賞を二作が受賞
- 第三回神戸文学賞「自由と正義の水たまり」（蒼電一・奈良市）同女流文学賞「夢の消滅」（大原由記子・高知市）
- 第四回神戸文学賞「溶ける闇」（高木敏克・神戸市）同女流文学賞「影と穢む」（田口佳子・伊丹市）
- 第五回神戸文学賞（該当なし）同女流文学賞「娘跡」（久保田匡子・大阪市）
- 第六回神戸文学賞「ガチャマン」（南浦演作・神戸市）同女流文学賞（該当なし）
- 第七回神戸文学賞「凶鳥の群」（徳留節・京都府）同女流文学賞「花いちもんめ」（新光江・鳥取市）
- 第八回神戸文学賞「昔の眼」（服部洋介・神戸市）同女流文学賞「薔薇の聲音」（菊池佐紀・愛媛県）

ここに第九回文学賞を公募するにあたり、多數の意欲的御投稿をお願いするとともに清新かつ強力な作品の出現を期待する次第です。

△募集要項

- 一、神戸文学賞は男性作品、神戸女流文学賞は女性作品とし、共に西日本在住者で応募作品は一篇に限ります。
- 一、応募作品は未発表原稿、または締切以前、一年未満に発行の同人誌に掲載したものに限ります。
- 一、原稿枚数は四百字稿百枚前後。
- 一、原稿には住所、本名、年齢、職業、略歴を明記し、四百字程度の作品主題（創作主旨）をつけて下さい。
- 一、締切りは八月一五日（当日消印有効）
- △選考委員▽足立巻一・小島輝正・森川達也・島京子



■いんたびゅう／珈琲飲みながら…

辻村ジュサブローに聞く――

人形にも生命がある。

きく人／藤本ハルミ 《デザイナー》

人形師。辻村ジュサブローの「ひと」とその藝術を見る「ジュサブロー芝居人形展—いのちなぞなぞ」が、六月十五日から二十日まで神戸そごうで開催。初日に来神したジュサブロー氏を、神戸の服飾デザイナー藤本ハルミさんがインタビュー。

藤本「辻村さんには、NHKの『里見八犬傳』以来魅きつけられまして、この人形を創っている人はどんな人かなと思って、『王女メディア』も辻村さんの衣裳が観たくて拝見しました。泉鏡花の『風流蝶花形』『葛飾砂子』も博品館劇場で、『海神別荘』は神戸で観ましたが、從来、人形には感情を入れなかつたけれど、『入魂』といいますか人形全部に、かつちり性格が入つていますね」

辻村「芝居が子供の頃から好きでしてね。ほんとは芝居の道に入りたかったんです。だから、創っている人形がドラマを持って来る、ドラマのある人形を創りたいと思うのですよ。だから、デートで可愛いし、綺麗な、情感のない人形を見るとかえつて悲しくなつて来るんで

す。人形にドラマのある状態を写して行くと、楽しいこと、悲しいことを持つようになつてはつとするんです。」

藤本「でも、人形としては存在感がありすぎて、妖気が漂よう人形の部屋を作らないといけませんね（笑）」

辻村「人間の日常の中でも、苦しいこと悲しいことがあるですね。でも楽で楽しいことがあるんじやなくて、何と本当の喜びが味わえるので、いつもぬるま湯の中にいるんじや安心しちゃつてだめなんじやないですか」

藤本「辻村さんの舞台衣裳のデザインを拝見すると、日本のは別にして、王女メディアやコロスには洋服の造形がばつちりある。私たちは戦後、型紙の洋裁方式を教わつて来ましたから、最終的には立体をやつて、人の身体にフィットさせた服づくりをして来たのですが、辻村さんの人形を見ると、まったくの立体方式（笑）ギリシャ風のあの造型的な形には、こんなのが創れるのかとびっくりしました。人形の身体に布を添わせて添わせて

創ってきたという、型紙からでは創れませんわね（笑）」

辻村「そうですね。まったくの立体（笑）クリエティ

ブな形で出来てあるでしょ？」

藤本「外国へ出されたことは？」

辻村「まだ、これからなんです。自分自身が、ギリシャの物を創るときも、日本を引きずつてんだから日本人として創っちゃう。ギリシャの時代に日本の布をこんな風に使ったかなというようなことは考えないで、自分が考えたもので創る。全部、メイドイン・ジャパンの辻村

ジユサブローであって、洋風和風を全然考えていないです。洋風は西洋人が創った方がより西洋的にテクニックじやなしに創られるのですから……」

藤本「女の立場から拝見すると、これは男でないとでき

ます。

洋風は西洋人が創った方がより西洋的にテクニックじやなしに創られるのですから……」

藤本「女の立場から拝見すると、これは男でないとでき

ます。

藤本「私も日本のきもの地で洋服をデザインしているんですけど、神戸は日本人じやない外人の眼だといわれますね。辻村さんもお生れが溝州でしょうね」

辻村「そうです。溝州、錦州省朝陽生れです。だからよく皆が、辻村は日本人じやない。別のところから日本を見ている。適当に大らかで、屈折の出方が強い」

藤本「そしてエネルギーが凄い」

辻村「今は、自分で創っていると、やらされている『天命』みたいな、一とつ創るとまた一つ創る。だからどうなるか、どんなものを創つて行くか自分にも予想がつかないですね。只、今の時代はものを大切にする時代でなくなつて来ているでしよう。物には生命がある。物に生命を与えて大切にするといきいきとよみがえるんですよ。だから後は自分の生理に忠実に人形を創つて行きましたね」

藤本「人形展の他に、呉服売場で辻村さんデザインのきものも売っていますが、いかがですか」

辻村「人形は何もわれわれに要求しませんが、きものは『着たい』という要求に応じなくてはいけないので、その要求に応えて行かないといけない。

創つてあるものをその人の雰囲気に合せて選ぶことが大事です。それからあまり高価にならないこと心がけています。着ていただからなくては何にもなりませんものね」

ないですね。こういうイメージ。女だとファニーぐらいいですね。こういうイメージ。女だとファニーぐらいいかな」

辻村「こういう隠微なお化の世界は男の領域かもしれない。どちらかといえば男からみた女をつくっている。

男には女の恐さが男には魅力で、これはやっぱり女が女をつくっているのと違う。意識の中でなく本能的に出来上るのと、出来上ると生理的に出てしまう。異性から見た性。女形の魅力でありますね」

藤本「私も日本のきもの地で洋服をデザインしているんですけど、神戸は日本人じやない外人の眼だといわれますね。辻村さんもお生れが溝州でしょうね」

辻村「溝州、錦州省朝陽生れです。だからよく皆が、辻村は日本人じやない。別のところから日本を見ている。適当に大らかで、屈折の出方が強い」

藤本「そしてエネルギーが凄い」

辻村「今は、自分で創っていると、やらされている『天

命』みたいな、一とつ創るとまた一つ創る。だからどう

なるか、どんなものを創つて行くか自分にも予想がつか

ないです。只、今の時代はものを大切にする時代でな

くなつて来ているでしよう。物には生命がある。物に生

命を与えて大切にするといきいきとよみがえるんですよ。だから後は自分の生理に忠実に人形を創つて行きましたね」

藤本「人形展の他に、呉服売場で辻村さんデザインのき

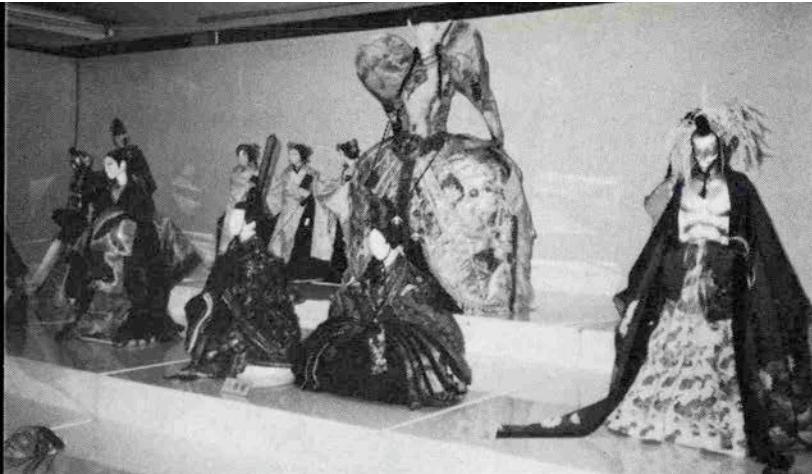
ものも売っていますが、いかがですか」

辻村「人形は何もわれわれに要求しませんが、きものは『着たい』という要求に

応じなくてはいけないので、その要求に

応えて行かないといけない。

創つてあるものをその人の雰囲気に合せて選ぶことが大事です。それからあまり高価にならないこと心がけています。着ていただからなくては何にもなりませんものね」



写真上は「海神別荘」の人形たち。（そごう7F展示場で）

写真下は辻村ジユサブローと藤本ハルミさん。（そごう5F辻村ジユサブローきもの売場—この期間のみ）

神戸学会の設立によつて 21世紀の都市づくりを!

□出席者

水谷 顕介 ▽都市計画家▽

田口 寛治 ▽神戸大学教授▽

森本 泰好 ▽株神戸地下街専務取締役▽

宮本 豊子 ▽県立生活科学研究所専門員▽

——今年3月のジャバア、ワールドなどの新社屋完成にともなつて、ポートアイランドのファッショントワーンがようやく界限としての姿を現わし始めた。コンベンション都市づくりについても、ワールド記念ホールの完成も近づき、神戸国際展示場や神戸国際交流会館、ポートピアホテルなどの施設に加えて、ポートアイランドは全国でも珍らしい価値あるコンベンション施設として脚光をあびています。

そこで、今回はこの辺で改めて真摯な姿勢に立ち戻つて、もう一度、神戸のもつてゐる様々な問題について見直すことは、神戸のあるべき方向性を探り、ポリシーをより洗練されたものにするための良い機会ではないか、と考えております。

今日は、神戸の将来について以前から積極的に取り組んでおられる方々にお集まりいただき、今までの経過を踏まえた上で色々なご意見をいただきたいと思います。

また、来年の夏には、'85ユニバーシアード神戸大会が行なわれますが、神戸市が全市をあげて、官民一体となって、ボランティアや募金、文化などの幅広い十全な受け入れ体制を進めつつあります。

★第2期をむかえたファッショントワーン都市づくり

森本 ファッショントワーン都市づくりは、神戸の将来を左右する大きな課題です。それだけに、ファッショントワーン都市づくりだけの問題ですませるわけにはいかないと思うのです。



宮本 豊子さん



森本 泰好さん



田口 寛治さん



水谷 順介さん

水谷 神戸以外の都市、たとえば、広島、福岡と比較すると行政がリーダーシップをもって頑張っているという点では、神戸市は評価しなければなりません。評価した上で、いつでもこれでいいのかとやはり疑問が残るわけです。大企業よりも地域に密着した産業があつてこそ、地元を大切にして地域とともに発展していくわけですから、どうしてもお役所の指導だけでは地域産業の多様性に応じきれないんです。神戸は、洋菓子や家具、アパレル、真珠など、早くから「衣・食・住」関連の産業をファッショントとして捉え、独自の方向で伸びてきて実績もあります。

また、京都や大阪も神戸と同様に地域型産業を生活文

というのは、今の神戸を見直すことは、第一に「行政指導型」のあり方を問いただすことになると思うからです。かつて、神戸の基幹産業としての鉄鋼や造船などの産業群は、元来、地元にむける関心よりもむしろ中央へむける関心の方がはるかに大きかったわけです。そのために、やむなく地元産業は行政指導型の方向へと進んでいった。ところが、現在にいたって行政指導型のままでいる次第です。行政指導型においては、まずどの企業も公平に、かつ、バランス感覚を保ちながらとというわけですから、当然、各企業がのびのびと成長しにくくなってしまう。確かに、ここまで神戸がファッショント産業面で伸びたのは、神戸市の貢献が大だといえるのですが、これから神戸を考えると、どうしても行政指導型では伸びるものも、芽をつんでしまって、どうも方向を誤ってしまうのではないか、と、多少の不安を感じています。ファッショントは、何といってもきれいなことはないんですよ。ファッショント産業、つまり、新しいものは、その奇抜な発想のために、いつの世でも異端視されるのが常です。異端がやがてはカジュアルになっていくわけです。これは行政指導型ではとても対応していくべき質のものだと思います。

化産業というふうに呼んでいますが、私はそれぞれ少し違うと思うんですよ。むしろ、京都は生活伝統産業であり、大阪は弱電気とか、住宅設備などの生活装備産業だと思います。そうしてみると、神戸はライフスタイルを創造する生活様式産業だといえるんです。この場合は、神戸だけではなくて、芦屋や西宮などつながった神戸ということになりますが、この阪神間プラス神戸は日本の近代をみても大変優れた住宅条件を備えた地域ですから、この基盤の上に持続されていく方向性を神戸は明確にうちだしていくべきじゃないでしょうか。

森本 確かに、神戸は大阪、京都と比べると趣きが異なります。以前から、京阪神三都市のファッショングローバル化議論を重ねてきていますが、ファッショングローバル化の考え方があがむと違うわけです。というのは、大阪も京都もファッショングローバル化の発想しかもてない、神戸から出ている委員だけが「衣・食・住」すべてを統合した生活文化を創造するものとしてファッショングローバル化だと口をすっぱくして説いてきたのが現状です。最近になってようやく大阪でも生活文化産業の意味が理解してもらえるようになってきましたが、これは何といつても神戸にとって大きな成果だといえますね。

かつて10年前、昭和48年にファッショングローバル化を宣言した時に、ファッショングローバル化の受けとり方をしていた人たちが大半だった。それを、ともかく生活文化だといいう水準にまでレベルアップさせたというのは、神戸にとって、この10年間の成果の一つです。しかし、安心はできません。神戸のファッショングローバル化について、ようやく第一期がすんだというところで、これから第二期に入ろうとしているわけです。いよいよ、これからが大変だなという気がしますね。

田口 ファッショングローバル化とは何か、という定義は別にして、神戸ファッショングローバル化のあり方、基本的な神戸らしいあり方を考えると、私は4つの段階があると思います。第一は、神戸を訪れた人が街角でふと出あつたおじ

さんなり、おばさんが「あつ、洒落てるな」と思う、そんな服装なり生活のし方をしていること。いろんな都市にそれぞれの都市の生活習慣があつて、たとえば私たちの人が、神戸のごく一般市民の何げない生活ぶりからそれが感じとるような要素がなければ、神戸らしいファッショングローバル化は育たないと思うんです。ファッショングローバル化の基本はそこにあるんですね。

第二には、よくいわれることですが、東京の人が神戸に来るのは神戸がいちばんだ、というふうに、よその人が神戸にきて、小売り店の店頭で商品を見つけて「ああ、いいなあ」と思って買い物をする。そんな魅力ある小売りがそろっていること、これが神戸らしさなんだと思うのです。第三には、これと矛盾するかもしれません、神戸の製造者サイドが、これが神戸なんですよ、ある程度の広い範囲で神戸以外の土地に卸して立派に通用するものを卸せることだと思います。

第四には、最初に言いました市民全体の生活文化がよそらみて、とてもうらやましいと思える点を底辺とすると同時に、上の方からもそれを手さぐりする方法として、神戸の場合は国際性があります。国際性という点では神戸は度外視できないわけでもあります、これによつて生まれてくる第2、第3の交流はファッショングローバル化の段階が1つ1つあるのではなく、バランスよくないままであって神戸をいい方向にもつていくのだと思います。

宮本 私は六甲で育ち、父が亡くなつたため、少しの間大阪にいたことがあるのですが、当時、転出したあと、何の用事もないのに毎日神戸へきていたんです。神戸を離れてみて、神戸がいいなあと思ったのかもしれません神戸の魅力について、どこがいいのだろうと考えていた折りに、先日、東京からのお客様に「神戸のよい点をひ

と言で言つて下さい」と聞いてみたんです。すると、「海と山が同時に見れる」、これが素晴らしいと言つんます。さりげなくお洒落ができる、さりげないセンスがあるんですね。また、消費生活という点からみても非常に住み安い、日本でNO.1のいい品物がかなりそろついて、それがトータルな調和を保つてるのは神戸だけです。一方で、そういう恵まれた条件の中で消費者運動も行政指導型だったことも、よしあしでいえば発展の中途段階では確かによかつたわけですが、今後はいろんな立場の人一人歩きを始めなければならない時期にきてます。森本 7月号の多田智満子さんの対談シリーズで、浅田彰さんが、神戸を表現するのに「記号論的構造をもつた街」といっています。海と山、西と東というふうにパリエーションがあり対極が必ず記号的、複合的に存在する好条件の街だというわけですが、それだけに要求度も当然のことながら高い。神戸のよい条件を最大限に生かして、第二のファッショント都市づくりへ向けて、神戸の各企業も一人歩きを始めてほしいものです。

★神戸に苦言を呈すれば「自信をもちすぎないこと」

宮本 先日、北野町を歩いていると、女子中学生が数人歩いてきてこんな話が耳に入ってきたんです。「うちのお父さん、神戸へ転勤になつてくれないかなあ」って話していたんですけど、私はこれを聞いて彼女たちのもつてているイメージがまさに神戸のよさなんだな、と実感しましたね。

森本 米花稔先生の言葉によると、神戸の特性というのは「総体的に日本の特色的少ない街」なんです。これは神戸の地理的、歴史的条件などから生まれてきたのだろうけど、伝統の重みにしばられることのない点を大切にしたいですね。ただ、用心しなければならないのは、開港120年の神戸がぼちぼち、伝統らしきものにひきずられて、古くさい感覚に陥りつあるのではないかと思う点ですね。

水谷 神戸は伝統がないというけれど、兵庫の街があつたことといわゆる神戸の街の2つの文化があつて、現在の神戸が存在すること、旧制中学でいえば、東の文化、神戸一中と兵庫の文化を背景にした二中、三中があつたことは大きなことだと思います。たとえば、竹中郁さんや小磯良平さんはその代表でしょうけど、ここで独自の個性を貫いてきた人たちと思うんです。それから新しい文化が須磨から生まれてきています。県立近代美術館の増田洋さんなどはその代表でしょうけど、ここで忘れてはならないのは、神戸が三宮中心になりすぎて、本当の神戸らしい知的エネルギーの充電できる場所が失われてしまう恐れがあることです。大阪へいけば、キタエーションがあるように、神戸が少なくとも2つの文化背景をもつて、三宮一色に染まってしまうことをさけていかないとダメですね。

森本 現在の神戸にあえてアドバイスをするなら、どんな点ですかと、建築家の黒川紀章さんに伺つたんです。が、あまり自信をもちすぎないように、といわれました。この10年間、考え方によれば、非常にラッキーな形でファッショント都市づくりが進んできたのですが、自信をもちすぎると選択の幅が狭くなる、すると、純粹に純粹にという方向へと進んでいくと異質なものを受けつけなくなつていく、というわけです。異質なものを感じとばしていくことはプラス面もあるけれど、大きな振幅はえられなくなる。文化が衰退していく過程は異質なものとの接触が少なくなり、文化的な刺激を失いだしたときからです。言い換えれば、ある程度、異質なものも抱き込んでいくだけの許容性をもたなければならぬのではないか、との話でした。私は、神戸が自信をもちすぎると危険だと改めて思いましたね。

★神戸学の研究会を結成、神戸の将来を語りあおう！

水谷 神戸の将来を考えると、東灘区や兵庫区、須磨区それぞれの地域がもつと個性をだしていいともいいと思

うんです。京都に、西陣とか室町という名が通用しているような形で行政区でなく、御影、岡本というふうにそれが性格をもち、三宮にぶらさがることなく、街が連合して神戸を性格づける方向も生まれてきてほしい。

宮本 深江の生活文化資料館を訪ねた時、感じたのですが、今でも深江村という意識を保っている、これは大切なことです。

田口 神戸は、西区と北区がどんどん開発されていますが、将来は、この2地区が神戸の重要な生活地区となつていくでしょうね。そこで私は思うのですが、神戸市営地下鉄が来年には新神戸までびて北神鉄道と連携して

六甲山をセントラルパークにして、内まわり、外まわりの環状線化できればとても面白いなあと夢みているんですよ。六甲山を単なる山としてとらえるのではなく、大自然を利用した市民の憩いの場として、神戸の交通網がこれをO字型にとりかこむのはどうでしよう。

森本 それは素晴らしい。私自身、ポートピア'81のとき、ヘリコプターで神戸の空を飛んだのですが、そのとき、本当に六甲山というの、神戸にとって、セントラルパーク的存在だなと思いましたよ。六甲山を登山といつたらあかん、もつとも市民に有効な方向へ役立たせ親しんでもらわなければと痛感しました。交通網についても緑のUラインではなくOラインにしなければいけません。

宮本 私の子供時代には、六甲山に登るまでに市街地から登山のプロローグの道というものがありました。街から遠ざかってだんだん六甲山に近づいていくのに、胸の高なっていく気分を感じました。そういうプロローグが今はすっかりなくなってしまったような気がします。これは六甲山に手を入れすぎたせいかもしれません。もちろん、人間の保護がなければ山は育たないかもしれません、が、田口先生の言われるような神戸のセントラルパークづくりのためには、手を加えることより、むしろ、プロローグづくりの方が大切だと思います。

(プラン・ドウ・プランにて)

水谷 神戸の将来を考えると、どうしても神戸の基本的なあり方を忘れてしまっては困るという気がします。六甲山もそうだけど、神戸はやはりミナトを中心にして成長していく街です。

空港づくりはとても重要なことです、だからといってミナトは古いかというと決してそうではない。神戸の基本は港です。港を通したコミュニケーションづくりを改めて見直してほしいですね。

森本 ファッション都市について、かつて畠中一郎さんが「神戸学」という一つの研究をライフルワークとして一生を捧げられたことは有名ですが、今こそ、改めて「神戸学」をうちたるべき時期ではないでしょうか。神戸という地域特性を背景に、本当の神戸らしさを「衣・食・住」のすべての面から総合的に扱い、神戸の明日にむけて、実戦的に研究しつけていくこと、畠先生のライフルワークの核をうけつぎ、実行していくための組織づくりと実行が火急の問題のように思います。

宮本 神戸が自信過剰になつたらダメだというお話をありました。私もそう思います。神戸が自己満足に陥らず、たえず他の世界との対話をもちつづけるような謙虚さを忘れないでほしい。

田口 ハーマン・カーンという学者の提唱する未来の都市像の条件があるのですが、未来などという前にびつたり当てはまるのが実は神戸なんです。神戸は他都市に類をみない好適な条件をいっぱい備えています。これを本当に生かしていくためには、私も「神戸学」の研究が不可欠と思います。そして、それが官民一体の協力によって一筋の誤りない未来の神戸を築いていくことになるものと期待しております。

田崎真珠株

取締役社長 田崎俊作
神戸市中央区港島中町 6-3-2
TEL (078) 302-3321

株ベニヤ

取締役社長 松谷富士男
神戸市中央区三宮町 1 丁目10-1
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株

代表取締役会長 葛野友太郎
神戸市東灘区御影本町 6 丁目11番19号
TEL (078) 851-1594



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の
企画は以上3社の提供によるものです。

経済ポケット ジャーナル



・実演した「'84 KOBE インターショナル OA ショウ」が六月七日から三日間、神戸国際展示場で開催された。OAが創る未来と高度情報化社会をテーマに三十社が出品。入場者も五万人を超える盛況ぶり。

★世界最大のコンテナ船
神戸に初入港

米国U・S・L社建造の世界最大のコンテナ船「アメリカン・ニューヨーク」(五七、〇〇〇トン、オーウエン・クランシー船長)が六月二十八日、ポートアイランドC6岸壁に接岸した。同船は韓国建造で、これが処女航だ。海全長は二百八十九・五尺、幅三十二・二尺、船体は二十四コンテナが四千五百個も積めるスケール。

翌二十九日には出港、横浜、ニューヨークへと向かつた。★石野成明神栄石野証券社長惜しまれる死去



アメリカン・ニューヨーク号

神栄石野証券社長の石野成明(いしの・なりあき)氏が六月二十九日、脳しづめ東京女子医大付属病院で亡くなられた。五十八歳。七月十二日に神戸国際会館でしめやかに社葬が行われた。

石野氏は神戸青年会議所の六代理事長として活躍。昭和四十年には神戸証券取引所の理事長に就任、退潮著しい同取引所の解散を行った。また五十四年から二年間は神戸経済同友会の代表幹事を務めた。神戸の経済界にとって惜しまれる死去となつた。合掌。

石野成明(いしの・なりあき)



★'84 KOBE オフィスレディ★

宮本 香里さん(24)
（会員）金益酒造株式会社

宮本 香里さん(24)

（会員）金益酒造株式会社

△その59／神社に大宇宙の哲理を見る

天気下降と地気上升

垣内 秀夫

△元薬高講師、地理学者△

先日地区のお宮さんの奉賀会の催しで、一泊二日の伊勢参りをしにきた。お正月の時分とちがって割合すいて、お神樂をあげてもゆつたりして、ゆっくりと参拝が出来た。伊勢神宮は皇室の氏神であると共に、日本に祭られている神社の総本社ともいいうべきものであることは誰でも知っている。敗戦前までは各地に伊勢講などがあつて、全国からのお参りで賑つたようである。

伊勢へは小学校の時に修学旅行

で行つたり、その後も一、二回お参りしたが、その一つについて以下のごとく、屋根の上に鰐木と千木があるのを誰も知っている。その千木についてであるが、両側に出ている千木の先端の切り口が水平になっているのと、垂直になつているのと二つの様式がある。内宮は水平で外宮は垂直である。神戸市内の神社についても読者はよく注意してご覧下さい。

これは何を意味しているのかご存知でしょうか。筆者はずっと以前に、それは祭っている神様が男女を示しているもので、水平は女の神で、垂直は男の神だと、どこかで教えられていて、人にも自慢らしく説明していた。

ところが、大違いである。今回旅の引率者である尼崎市の富松神社の宮司の吉見氏から、はじめお聞きしたのであるが、水平は「天気下降」で、垂直は「地気上升」をあらわしているのであること。これを聞いた筆者はうーんとうなつた。

何んとすばらしい「大宇宙の哲理」を示したものであるかと。そ

う言われると、外宮の豊受大神宮の祭神は「豊宇氣昆彌」で女神である。筆者の今までの知識では、千木の先端が女神であるから水平でなければならぬのに実際は垂直になっている。



写真は東灘区本山町北畠の保久良神社の社叢である。(筆者撮影)

今、学問では、この地表上の生物、人間もその例にもれず、天空より宇宙線(プラナ)を受け、大地より地磁気の上昇流を受けているのである。この地磁気のことについては、今の人達はほとんど知らない。ゴム靴でなく、わらじかぞうりで、または裸足で土の地面を歩くと健康によいと昔から言われているのはそのためである。

お宮やお寺へお参りして、ああ、ご利益があつたとよろこんでいる。それでは神様がその人に何かそつとくれたのであろうか。ちがう。昔からある大きな社や寺は必ず土地の電圧の高いところにあります。これをイヤシロチという。

オルギ博士がその著書で「人体は電気のかたまりである」と言つてゐる。人体は、否すべての生物も無生物さえ、男電気と女電気の二つによつてつくられていて、天の氣と地の氣を通しているのである。全く人体は電気でできているのである。その証拠に脳波や心電図がとれるではないか。この地磁気の強いところが樹木もよく育ち大木になる。神社にはご神木がある。お参りすることによって体内に電気をとり入れえて、そのためにセイセイするのである。